
その時、英雄に何が起きたか

ナカモト工事

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

その時、英雄に何が起こったか

【Nコード】

N8586S

【作者名】

ナカモト工事

【あらすじ】

三百年続く戦争の中、剣の国の英雄である彼は、ある日を境に剣を捨て、平和を叫ぶようになる。これは、英雄である彼と、彼の心に深い影響を及ぼしたものの奇跡とも呼ぶべき出会いの話である。真剣な話ではありません。

（前書き）

シユールなものが書きたいな…と行ってできたお話です。

正直、訳の分からない話です。出来心だったと言っても過言ではないほど訳の分からない話です。

それでもいいと仰る心優しい方のほんの暇潰しになればいいな〜と思いつながら、多分私の黒歴史になるであろうこの話を公開します。

剣の国セネルツェンドには英雄がいた。彼が剣を一薙ぎすれば剣風は刃となって敵の体を切り裂き、彼の巨体が戦場を駆ければ渦巻く風となって敵を巻き込み、彼が剣を振り下ろせば大地さえも斬り裂く。

一体今まで幾百、幾千の血を浴びてきただろうか。幾度洗っても身体にこびりついた血の臭いは彼の鼻をつく。だがそれさえも彼にとっては武勲となり、また人々も恐れながらも彼を英雄として讃えるのだ。

隣国、獣人の国との戦いを彼の手で終わらせてひと月、次の戦いに備えて彼は新たな防具を選びに街のとある店にいた。

「……」

彼の手には二種類のビキニが握られている。花柄にしようか、それとも水玉にしようか、彼は究極の選択を迫られていた。

戦場に咲く一輪の花。それは血に濡れる戦場に在る事によって一際美しく咲き誇る事だろう。しかし、水玉は彼にとって淡い初恋の思い出と共にある柄だ。美しさをとるべきか…それとも、思い出を胸に抱き続けるべきか…彼はビキニを手に十時間悩み続けて尚答えは出ない。

「お客様、ご試着されますか？」

願ってもない申し出だった。そうだ、着用すればどちらが自分に合うのか分かるではないか。彼にその事を気づかせてくれた店員の女性が彼の目には救国の聖女に見える。彼は聖女に三度膝を折って祈り、そして試着室へと向かった。

しかし、入る前に問題が出てきた。彼の二メートル強ある身長と、鋼よりも固く鍛え上げられた肉体が、狭い試着室への侵入を阻んだのだ。

彼は哭いた。

おお、神よ。私のこの血に濡れた手ではビキニを着る事すら赦されないと言うのか。彼の悲痛の叫びは宙を震わせ、大地を揺さ振り、店内の壁に、窓にヒビを入れる。

「お客様。もう他にお客様もいらっしやいませなので、ここで着替えて頂いても結構ですよ」

絶望の淵にいた彼の心を救ったのは、またしても先程の聖女だった。いや、もはや彼の目には女神に見える。彼は女神に三度平伏し、そしてその場で筋肉を倍に盛り上がらせ、服をはち切った。

「コオオオ…シユゴオオオ…」

高揚した心を抑えきれず、彼の口から吐息が漏れる。恐る恐る花柄のビキニを手に取り、まずは下を履き、そして上の部分を取って盛り上がった筋肉をもともせず後ろに手を回し紐を結ぶ。

おお、なんと美しい。これは天に咲き誇る花にも劣らない程に清らかで可憐ではないか。このような姿で戦場を駆け抜けければ、英雄ではなく、天使と見間違われるのではないだろうか。

即決で財布に手を伸ばしかけたが、だがしかし、もう一つも確認せねばならない。彼は水玉のビキニを着用する為に、花柄ビキニの胸の部分を掴んで引きちぎった。

そして、水玉のビキニを着用した瞬間。彼の中でセンサーシヨナルな感情の渦が巻き起こった。

それは、彼の価値観、生きる意味、今までその目で見てきたこの世の全てを全否定するかのようだった。白い生地にピンク色の水玉その白は人の心の醜さを暴き、なおかつその罪を全て赦すかのようになり輝いているように感じる。その上に浮かぶピンクの玉はまさに『愛』。母の愛。恋人の愛。友人の愛。生けとし生ける全ての者の愛を象徴しているかのようだ。

今、彼は今まで犯してきた様々な罪を、水玉のビキニの深い慈愛の心によって赦されたのだ。

「お客様、毛の生えたゴールデンボールがはみ出しておりますが」彼の女神は彼に警告をする。しかし、彼にとってはそんな事はど

うだつていいのだ。今までもずっとはみ出しながら戦い続けていたのだから。

「フグゴゴゴオオオ…」

彼は女神にそう礼を言い、そして店を出た。

これが彼と、彼が終生着用し続けた水玉ビキニとの出会いである。彼がその水玉の慈愛の心により三百年続く戦争を和解という形で終決させ、後の世に『水玉の天使』として語り継がれていったのは、また別の話 …

(後書き)

読んだ時間を無駄にした…とってしまった方。本当に申し訳ございませんでした。

それでも読んで下さった方、ありがとうございました(*、、)
)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8586s/>

その時、英雄に何が起きたか

2011年10月8日16時55分発行